

まんが王国・土佐推進協議会平成27年度第1回総会（概要）

日 時：平成27年9月18日（金）14:00～16:00

場 所：高知会館 飛鳥の間

出席者：まんが王国・土佐推進協議会委員21名（うち代理出席4名）
監事2名、オブザーバー1名（代理出席）

（1）議 事

「平成26年度まんが王国・土佐推進協議会事業報告及び収支決算」については、承認された。

（2）報告事項

事務局から、下記の会長専決及び本年度の取組についての報告があった。

<まんが王国関係>

- ・平成27年度まんが王国・土佐推進協議会収支予算
- ・第24回全国高等学校漫画選手権大会・まんが甲子園の実施状況について
- ・「ニコニコ超会議2015」への出展について
- ・「高知×鳥取 まんが王国会議 2015 in AKIBA」について
- ・まんが教室の実施状況について
- ・まんが教室3年間のまとめ
- ・まんが王国・土佐ポータルサイトの運用について

<コンテンツ産業関係>

- ・平成27年度高知県ゲームキャラクターデザインコンテストについて
- ・平成27年度コンテンツ産業の集積に向けた取組について

（3）協議事項

以下の協議事項について報告等の後、意見交換が行われた。

- ・「全国漫画家大会議 in まんが王国・土佐」について
（事務局から報告が行われた）
- ・「平成28年度「まんが王国・土佐」ブランド強化及びコンテンツ産業振興の取組について
（まんが王国振興部会及びコンテンツ産業振興部会から進捗状況の報告と提案が行われた）

「全国漫画家大会議 in まんが王国・土佐」について

【A委員】

- ・高知に来て楽しんでもらえる企画になっている。

【B委員】

- ・粘り強くやってくれている。昨年第1回は大成功。第2回も楽しみにしている。
- ・特に体験イベントが素晴らしい。より沢山の人に体験してもらうためには工夫が必要。単発でおわりに

- しないようにしなければならない。デザイン系専門学校等の教育機関との連携もしたらいい。
- ・イベント自体も、我々だけでなく、周りが乗っかってきて盛り上がっていくような形にしていきたい。

【会長】

- ・自分自身も参加してみて、知的で面白いイベントになっていたと思う。
- ・その場限りで終わらない工夫を考えてみる。メディア系、学生とのコラボも進めて行く。

【まんが部会長】

- ・各イベントのターゲット層の整理ということで資料が出ているが、単発ではなく、3つのイベントを併せてみる必要がある。まんが甲子園は16~18歳の高校生、まんさいは子ども~青年層、大会議は全方位ということで、この3つで1年を通した流れになっている。

【C委員】

- ・次回はおきやくに合わせられてありがたい。
- ・漫画家大会議の開催によって、高知はまんが王国なんだということを県民に気付いてもらうことができ、アピールできた。来年も再来年も続けてほしい。

平成28年度「まんが王国・土佐」ブランド強化及びコンテンツ産業振興の取組について

【D委員】

- ・教育は能力開発の方向に向かっている。その中で、まんがをどう活かしていくか、楔を打ち込むかを考えていくことが必要。

【E委員】

- ・知事クラスが旗を振っているというのは世界でも例がない。
- ・高知の取組をそのまま教科書化すればいい。

【会長】

- ・県外の事例を含め、ぜひ知恵を貸していただきたい。

【F委員】

- ・高知県の取組がここまで進んできたので、コンテンツを教育や産業振興に活かすとともに、資金調達や産学官連携を横断的な推進体制を作って推進していくような、大きな枠組みを考える時期に来ていると思う。
- ・国の方針でも、このような取組を推進することで、人口や就業率を増加させ、地域に経済波及効果をもたらすことが目的であるので、国の交付金の活用も検討すべき。

【会長】

- ・地方創生の仕事、まち・ひと・しごと創生本部の中で、ビッグデータを使っていきながら、色々な新たな事業展開に繋げようというプロジェクトが動いているので、我々も是非チャレンジしたいと思うが、専門的なことでもあるので、本県の産業振興計画の関係部署とまんが・コンテンツ課で御相談させていただきながら進めたい。

【G委員】

- ・先日10年ぶりに愛媛県に行ったら、「みきゃん」というキャラクターを県全体で売り出していた。やはり高知にも、統一したキャラクタへーが必要だと思う。例えば、ゆずをモチーフにしたものはどうか。ゆるキャラならぬ、ゆずキャラ総選挙をやるとか、県民が育てるキャラクターが必要。

【H委員】

- ・まんが王国・土佐をもっとPRすべき。認知度はまだまだ低い。

【まんが部会長】

- ・もっとコンテンツ産業振興部会とも協力体制をつくりたい。
- ・廃止と聞いて残念な気持ちでいるのだが、キャラクターデザインコンテストはまさに県内のまんがを志す若者に関連するもの。スポーツについても、グッズ等の作成がフックになるのでは。

【会長】

- ・キャラクターデザインコンテストは、廃止するのではなく、ハッカソン等新たに進化したと考えて欲しい。

【E委員】

- ・キャラクターについては、非公認のふなっしーの例もあり、何がうけるかは予測不能。
- ・船橋のアンデルセン公園は、世界最大の旅行クチコミサイト「トリップアドバイザー」での「日本のアミューズメントパーク TOP10」で3位になったが、これは「何もない」ことが評価されている。要は何を売りにするか。

【F委員】

- ・アウトプットする仕組みを用意することが必要。拡散の論理。例えば、動画を活用することは必須。

【会長】

- ・ゆずキャラと合わせてみても面白いかもしれない。

【I委員代理】

- ・文化庁も、メディア芸術を文化振興として進めている。
- ・まんが甲子園は、人材育成関係であれば可能性があるかもしれない。コンテンツについては、ぜひメディア芸術祭への応募をしてみて欲しい。育成枠もある。

【J委員代理】

- ・J-LOP 補助金は、来年度どうなるかわからず、現状では未定。また情報は提供する。

【コンテンツ部会長】

- ・高専で防災アプリのチームが全国1位になった。それをどうやってビジネスにするかが重要。
- ・種はある。それを育てる努力を続け、ビジネスを支援することを進めていきたい。

【会長】

- ・モニュメントの移設については、承認していただけるか。

【全員】

- ・問題ない。